

Editor's Choice



今月の編集部オススメのソフト&ハード

インターネットへの関心の高まりとともに、インターネットを楽しむための周辺機器や、ソフトウェアが店頭でも増えてきた。パソコンショップに行って何を買ったらいいかと悩んでいる、そんなあなたのために、今月から編集部が厳選した、役に立つと思うハードウェアやソフトウェアを紹介する。価格、機能、ファイルサイズなどさまざまな視点から、独自の価値観でビシビシ評価する。ソフトウェアについては市販のもの、ネットワークで入手できるフリーソフト、シェアウェアなどを分け隔てなく、良いと思われるものはどんどん紹介していくので期待してほしい。製品を購入したり、ソフトウェアをダウンロードしたりする前に必ずこのコーナーを読んでチェックだ！

今月のラインナップ

28800bpsのファックスモデムとサウンドカードが1枚のボードでOK

インターネット・スタータ・キット

[発売元：メルコ]



インターネットで文字放送を実現する期待の国産ツール

Internet TELETEXT

[作者：インプレス・ラボ]



CGM、BMP、TIFFなどメジャーな画像ファイルをインライン表示する
ネットスケープ・ナビゲーターのプラグインソフト

FIGleaf Inline

[作者：EBT Inc. Carberry Technology]



誰でも簡単にクリッカブルマップを作成できる

MapEdit

[作者：Boutell.Com社、Thomas Boutell氏]



このコーナーの見方

各製品に付いている記号の意味は以下のとおりです。

- | | | | |
|--------------|-----------------|--------|------------------|
| : ウィンドウズ95用 | : 市販のハードウェア製品 | : 動作環境 | : バージョン |
| : ウィンドウズ3.1用 | : 市販のソフトウェア製品 | : 発売元 | : 作者 |
| : ウィンドウズNT用 | : シェアウェアのソフトウェア | : 電話番号 | : 入手先 |
| : マッキントッシュ用 | : フリーウェアのソフトウェア | : 価格 | : 付属品 |
| : UNIX用 | : 付録CD-ROMに収録 | : 関連情報 | : ファイルサイズ/最速転送時間 |

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



28800bpsのファクスマデムとサウンドカードが1枚のボードでOK

インターネット・スタータ・キット

IND-M288S Hard

¥ : 44,800円 : メルコ

ここがスゴイ!

- ① 内蔵型なので高速RS232Cボードを別に買う必要がなく、28800bpsの高速通信を実現できる
- ② ファクスマデム、高速RS232Cボード、サウンド機能を別に買うよりも割安
- ③ 同梱ソフトが豊富

メルコの「インターネット・スタータ・キットIND-M288S」は、ファクスマデムボードにサウンド機能を付加した「1枚2役」のカードだ。28800bpsのモデムの購入を考えていて、しかもサウンド機能を必要としている人には、お買い得の製品だ。

▶ 高速RS232Cボードが不要

NECのPC-9800シリーズには、外付けの28800bpsのモデムを接続した場合、RS232Cに接続するだけでは28800bpsで通信できない機種がある。それらの機種ではRS232Cの通信速度が最高で9600bpsや19200bpsまでしか出ない。外付けの高速モデムを利用するためには、「高速RS232Cボード」というボードを別に購入しなければならなかった。しかし、そのような機種でも、ファクスマデムカードと一体になっているものを選べば、高速シリアルボードを買う必要はない。IND288Sが対応している98シリーズのRS232Cの速度を一覧にしたので、詳しくは表を見てほしい。

▶ 豊富な添付ソフト群

この製品は「インターネット・スタータ・キット」と銘打っているだけあって、添付ソフトが豊富だ。ウィンドウズ3.1用のプロトコルスタックとして「トランペット (Trumpet)」、ネットスケープ・ナビゲーター1.1J、「インターネットフォン」が添付されているので、このパッケージだけで、すぐにインターネットを楽しめる。旧機種でウィンドウズ95を動かすには少し力不足というマシンでも、ウィンドウズ3.1ベースでインターネット環境を構築できる。また、ウィンドウズ95用のドライバーが添付されていることもうれしい。メルコの対応の早さを評価したい。これであとはメールソフトさえ付属していれば完璧なのだが、この点は少し惜しいところだ。

▶ 16ビットのPCM音源を装備

サウンド機能としては、16ビットのステレオPCM音源が装備されている。マイク入力端子があるので、付属のマイクを使ってインターネットフォンが楽しめる。ヘッドフォン出力端子もある。

試用レポート

▶ プラグ・アンド・プレイではない

今回、評価に使ったのは編集部PC-9821Xa7。OSはウィンドウズ95を使用した。これはサウンド機能が

もともと付いている機種なので、パソコン側のサウンド機能を使えなくして、ボードのサウンド機能を試してみた。ボードをパソコン側にセットし、デバイスドライバーを添付ディスクからインストールする。マニュアルに丁寧にセットアップ方法が説明してあるので、大丈夫だろう。テストに使ったマシンにはすでにLANボードが挿入してあったので、IRQの競合などの問題で少し手間がかかったが、無事、インストールに成功した。ウィンドウズ95のプラグ・アンド・プレイには対応していないので、複数のボードを使用している人はボード上にあるディップスイッチを調整する必要があるかもしれない。

▶ リアルオーディオもOK

ウィンドウズ95でIIJの東京のアクセスポイントにダイヤルアップ接続してみたところ、28800bpsでの接続に成功した。高速接続でサウンド機能とくれば、インターネットのオーディオツールの定番である「リアルオーディオ」を試してみたくなる。リアルオーディオは一部のパソコンでは音が出ないと報告されているが、このボードではきちんと音が出た。ただし、ボード上に実装されているスピーカーではさすがに音質に難がある。高音質を求めるなら、ボード裏にある「OUT」端子に市販のスピーカーをつなぐことをおすすめする。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



背面にはコネクタが並ぶ。左から、マイク入力、ヘッドフォン出力、ボリューム、専用ハンドセット(別売り)用ジャック、電話機接続用ジャック、電話回線接続用ジャック

IND-M288Sが対応しているPC-9800シリーズのRS232Cの速度

9600bps	PC-9821Ap, As, Ae, Ce, 98MULTI, PC-9801BA, BX, FA, FS, FX, DA, RA, DS, DX, RS, RX, EX, ES, CS, T, US
19200bps	PC-9821Ap3, As3, Ap2, Af, An, Bp, Bf, Xp, Xs, Xe, Xn, Xa, Xt, Xf, Cf, Cx, Ce2, Cs2, Cb, PC-9801BA3/2, BX3/2
115200bps	PC-9821Xe10, Xa13/12/10/9/7/7e, Xt13, Xt13, Xb10, V10/7, Cb3/2, Cx3/2, PC-9800BX4

: ウィンドウズ3.1かウィンドウズ95を搭載したNECのPC-9801、PC-9821シリーズ、またはエプソンのPC-386、PC-486、PC-586シリーズ

: メルコ

: 052-619-1827

: 44,800円

: マイク、モジュラーケーブル、ネットスケープ・ナビゲーター1.1J、インターネットフォン3.0J、トランペット、接続サービス「mesh」、ウェルカムキット

: URL <http://www.melcoinc.co.jp/>



インターネットで文字放送を実現する期待の国産ツール

インターネット・テレテキスト

Internet TELETEXT

☎: インプレス・ラボ

ここがスゴイ!

- ① インターネット上で文字放送を実現するまったく新しいソフト
- ② 役に立つ番組がすでに始まっている
- ③ テキストでの情報発信なので、低速度の回線でもストレスがない

本誌を発行している株式会社インプレスが面白いインターネット用ソフトを開発した。「インターネット・テレテキスト (Internet TELETEXT)」というソフトで、インターネットで文字放送を実現するというまったく新しいタイプのソフトだ。

▶ WWWと組み合わせて使える

インターネット・テレテキストは、操作が大変シンプルなソフトウェアだ。サーバー名とポート名を登録して、いったんサーバーに接続してしまえば、ユーザーはテレビやラジオのように、見たい「チャンネル」を選んで好きな番組のテキストデータを受信することができる。街角の電光ニュースのように、あとは流れていくテキストデータを眺めているだけ。つまり、これはインターネットでの「文字放送」というわけだ。インターネット・テレテキストのウィンドウには刻々とテキストデータが横スクロールし、最新情報が流れていく。テキストといっても、普段利用している単純な文字を表示するわけではなく、電光掲示板にそっくりなドット(点)の組み合わせによる文字表示で、画面から伝わる雰囲気はまさに街角の電光ニュースのようだ。この表示画面については拡大縮小も可能で、自分の環境に合わせて好きなサイズにしておくことができ、ウィンドウのメニューバーを非表示にすることもできる。元に戻すときは画面をダブルクリックすればよい。一度データを受信するとクライアントソフト側に番組の一覧がメニューに追加されているので好きな番組に切り替えることも簡単だ。番組データは常にスクロールして表示されるので、なにか他のことをしながら気楽に見ることができる。

WWWとリンクさせて情報を提供することもできる。利用者側はクライアントソフトを用意し、WWWブラウザのヘルパーアプリケーションとして登録しておけばよい。そして、WWW上の番組データをクリックすることによって自動的にクライアントソフトとサーバーソフトとの間で通信を行う。実際に文字放送の番組も

いくつか用意されているので、すぐに試してみることが可能だ。専用のサーバーソフトを動作させることで、番組発信者となって文字放送サービスをはじめられることもできる。スクロールして表示されるので、なにか別のことをしながら気楽に見ることができる。

▶ すでに本格的な放送が開始

現在、インプレスではすでにインターネット・テレテキスト用に複数の番組を提供している。インプレスの新刊情報や、電子メールで毎日インターネットのニュースを伝えている「インターネット・ウォッチ」(2月に創刊)のダイジェストでは、毎日の記事のヘッドラインを読む。

「ガリレオニュース」はマルチメディアに関連する企業動向、製品動向、技術動向など、海外のニュースを中心に伝えている日刊ニュースレターだ。海外のマルチメディア動向に興味がある人はアクセスしてみよう。

また、1月31日からは毎日新聞の総合ニュースなどを提供している。記事から厳選した10本の「ヘッドライン」を放送している。時間を追うごとに自動的に情報が更新されていくので、常に最新のニュースを読む。

なお、現在はもう放送されていないが、1月にはニッポン放送と共同で行っている「1996 グラナダ・ダカールラリー」の速報も行われ、毎日行われるレースの結果や総合順位などが放送された。

音声データと違い、テキストデータを定期的に転送するだけなのでデータ量も非常に少なく、ネットワークにも自分のマシンの環境にも負荷をほとんどかけない。現在、動画データ(アニメーションやビデオ)や音声データなどをリアルタイムに転送して再生するソフトが脚光を浴びているが、リアルタイムの情報提供の手段として文字放送ほど効率のよい方法はないと思う。

▶ クリックブルURL機能がぜひ欲しい

ただし、まだ公開して間もないアルファ版というこ



[図1] 実行中画面



[図2] インターネット・テレテキストのホームページ



ともあり、機能が不足している点や改善すべき点がある。たとえば、文字放送データの表示スピードは変化させることができない。急いで見たいというときにはなかなか表示されず、もどかしく感じるかもしれない。また、画面のサイズを変更してしまうと、せっかく途中まで流れた文字データがまた戻って初めから表示し直してしまうので、サイズを変えても同じ位置からまた表示できるようにしてほしいところだ。

追加してほしい機能は、いわゆるクリッカブルURL機能があげられる。たとえば、広告やニュースが流れてきたときに、自分の関心のあるものをマウスでクリックすればWWWブラウザが自動的に起動し、ホームページを表示できれば便利だろう。さらに、できることならば独立したヘルパーアプリケーションではなく、今はやりのネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラーなどWWWブラウザへのプラグインとして動作し、インライン表示できれば普及の大きな一因になるのではないだろうか。

現在アナウンスされているところによれば、ページ単位での表示や文字修飾、画像の表示、文字の読み上げ、そしてFMやテレビの文字放送などでも実現している緊急モード（台風や地震などの緊急ニュースを強制的に知らせる）を用意する予定という。

▶ 協力者募集！

インプレスではこのインターネット・テレテキストのサーバーソフトのテストを行ってくれる人や、番組の情報ソースを提供してくれる人を募集している。この新しいソフトを試してみたい、育ててみたいという人がいけば協力してみてもいいだろう。なお、このソフトは現在アルファ版（テスト段階のソフト）としてウィンドウズ3.1用、ウィンドウズ95およびNT用、マッキントッシュ用の3種類がインプレスのWWWサーバー上で公開されており、自由にダウンロードできる。それぞれのアーカイブファイルはコンパクトなので気軽にダウンロードできる。（石橋文健）

[図3] チャンネル切り替えのメニュー



[図4] サーバー登録のダイアログボックス



Internet TELETEXT

-  : 0.5
-  : インプレス・ラボ
-  : <http://www.impress.co.jp/teletext/download/>
-  : 17.2Kバイト/7秒（ウィンドウズ3.1用）
22Kバイト/9秒（ウィンドウズ95/NT用）
80Kバイト/27秒（マッキントッシュ用）
-  : <http://www.impress.co.jp/teletext/teletext@impress.co.jp>（連絡メールアドレス）



CGM、BMP、TIFFなどメジャーな画像ファイルをインライン表示するネットスケープ・ナビゲータープラグインソフト

FIGリーフ・インライン

FIG leaf Inline

© : EBT Inc. Carberry Technology



ここがスゴイ!

- ① ネットスケープ・ナビゲーター上で表示できる画像フォーマットを14種類に増やす
- ② インライン画像を部分拡大できる



[図1] 拡大の範囲指定を行っているところ

「FIGリーフ・インライン (FIGleaf Inline)」はEBT社のカルバリー・テクノロジー (Carberry Technology) というグループが開発したもので、複数のグラフィックフォーマットに対応し、ネットスケープ・ナビゲーター上にインライン表示する機能を持つ。

▶ 数多くのフォーマットをサポート

ネットスケープ・ナビゲーター単独ではJPEGまたはGIFだけしかインライン表示はできない。しかし、このソフトをインストールすることで、ネットスケープナビゲーターは画像データ形式の対応数が一気に増えることになる。

現在対応している画像

データ形式は次のとおり。

TIFF、GIF、JPEG、BMP、WMF、EPSI、EPSF、G4、TG4、PPM、PGM、PBM、SUN、CGM

聞き慣れないデータ形式も多いと思うが、インターネットと限定せずに一般的によく使われている画像データ形式としては上記リストの中の5種類くらいが入るだろう。またはUNIX系のシステムと連携している組織の中ではEPSI、EPSFなども入るかもしれない。ところが今これらの形式は (GIFとJPEGを除いて) WWWブラウザでは表示ができない。蓄積された既存のデータをそのまま活用することができず、GIFやJPEGにやむをえず変換しているのが実情だ。FIGリーフ・インラインを使えば、そのような煩わしさがなくなる。とくに、ウィンドウズの標準画像フォーマットであるBMPをサポートしているのは便利だ。

▶ 画像の拡大などもできる

既存のGIFやJPEGまでもサポートしていることについて不思議に思われる方が多いと思うが、FIGリーフ・インラインは、表示される画像フォーマットの種類を増やす以外に、マウスで範囲指定をすることで任意の部分を拡大 (ズーム) させたり、ウィンドウサイズに合わせたサイズに自動拡大したりするなどの機能もある。ただし、GIFやJPEG以外のフォーマットで拡大できるようにするには、プラグインツールで処理することを明示的にするため、HTMLファイルの中で<EMBED>のタグを埋め込んでおく必要がある。

▶ ネットスケープのバージョンに注意

ベータ版として公開されている現在の段階では、注意すべき点がある。アナウンスされているとおり、ネットスケープ・ナビゲーターは2.0ベータ4を用いることがベストで、他のバージョン (たとえば2.0ベータ5) の使用では一部機能が動作不能になるところがある。ナビゲーター本体がエラーを起こして強制終了することもある。また、画像の表示はデータファイルをすべて読み込んだ時点で初めて表示するので、やや待ち時間が気になる。フルカラーの画像を表示した際には色の表現が正常に行われない。このような点は今後の改善を待ちたい。

(石橋文健)

[図2] 拡大表示したところ

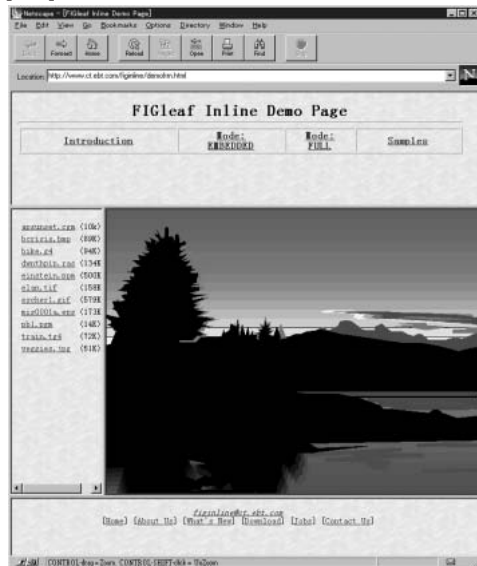


FIG leaf Inline



: 1.0ベータ2



: EBT Inc. Carberry Technology



: URL <http://www.ct.ebt.com/figinline/download.html>
<ftp://ftp.ct.ebt.com/pub/figleaf/>



: 1566K/バイト9分18秒



: URL <http://www.ct.ebt.com/figinline/>
URL <http://www.agocg.ac.uk:8080/agocg/CGM.html>



誰でも簡単にクリッカブルマップを作成できる

マップエディット

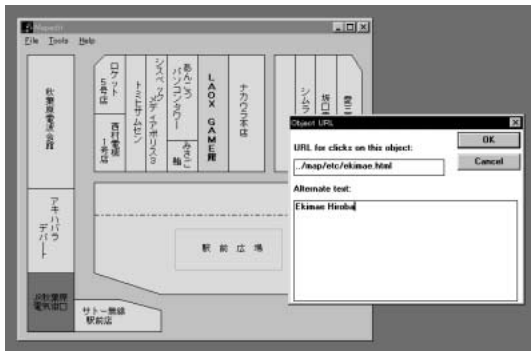
MapEdit

¥ : 25ドル 人 : Boutell.com社/Thomas Boutell氏



ここがスゴイ!

- ① クライアントサイドイメージマップに対応
- ② 操作方法が簡単



[図1] 四角の座標値をセットし、ジャンプ先のURLを入力しているところ

「マップエディット (MapEdit)」は、ホームページの表現や機能を広げる方法の1つとして人気の高い「クリッカブルマップ」を実現するための便利なソフトだ。クリッカブルマップとは、画像データの各部分をマウスでクリックすると、その場所に対応したホームページへアクセスする機能のことだ。

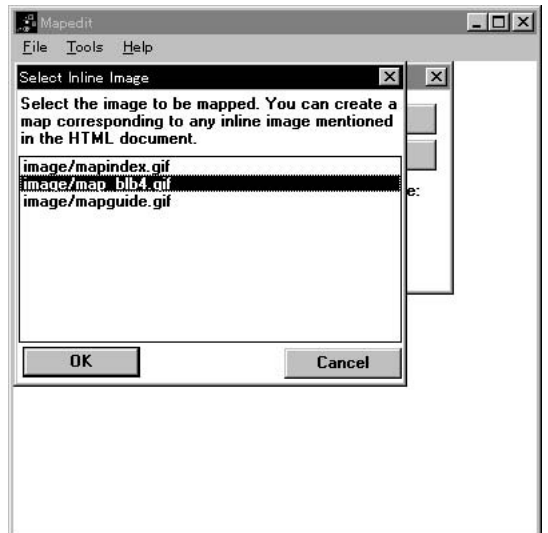
▶ クライアントサイドイメージマップにも対応

クリッカブルマップを実現する方法には、WWWサーバーの機能を利用した「サーバーサイドイメージマップ」とWWWブラウザのみの機能で実現する「クライアントサイドイメージマップ」という2つの方法がある。前者はHTMLファイルのほかに「MAPファイル」と呼ばれる座標軸とジャンプするURLを記述したファイルを別に用意する必要があるうえ、WWWサーバーの種類によってMAPファイルの記述フォーマットが異なるため、やや手間がかかる。

マップエディットはMAPファイルを簡単に記述できるほか、最新のWWWブラウザでサポートされた「クライアントサイドイメージマップ」に対応したHTMLも編集できる。クライアントサイドイメージマップは、WWWサーバー側の機能を利用せずにHTMLファイルの中で座標値やジャンプ先のURLを埋め込み、WWWブラウザ側ですべてを解釈してクリッカブルマップを実現してしまう方法だ。この方法であれば、オフラインの状態であってもクリッカブルマップを使うことができる。ここではこのクライアントサイドイメージマップ作成機能に絞って紹介していこう。

▶ わかりやすい操作方法

まずマップエディットを起動する前に、クリッカブルマップで使用したい画像データをのタグで埋め込んだHTMLを先に作成しておく。画像ファイルはJPEG、GIF、PNGに対応している。マップエディットを起動すると、HTMLファイルを読み込むと、HTMLファイルの中で埋め込まれている画像ファイルの一覧を表示するので、クリッカブルマップにしたい画像ファイルを指定する。するとその画像ファイルが読み込まれ、すぐに編集作業に入ることができる。



[図2] HTMLと画像データファイルの読み込み時パスがセットされたところ

座標は、ドロー系ソフトやCADソフトのように任意の円、四角、多角形をマウスで指定

できる。1つの座標指定が終了するたびに、その座標値に対応したジャンプ先のURLと、画像データの代替えとなるテキストを入力するダイアログボックスが表示されるので、任意のデータを入力する。指定した円や四角の座標値とは違う部分でマウスがクリックされた場合のジャンプ先URLが設定できる。ドロー系ソフトやCADソフトのような感覚で座標値の変更や移動を行うことができ、使いやすい。設定が完了した後も、再度読み込みれば設定済みの座標値をすぐに編集できる。

▶ まずは使ってみよう

このソフトは従来UNIX上で動作するソフトとして知られており、最近になってウィンドウズ版がリリースされたものだ。画面は大変シンプルなソフトで、無駄はないが、悪く言えば無味乾燥ではある。最初はとっつきにくいかもしれないが、実際に触ってみればきっとすぐに慣れてしまうだろう。なお、ウィンドウズ用の現バージョン(2.02)では、HTMLファイルで埋め込んだタグで存在しない画像データファイルを指定していた場合、マップエディットが異常終了してしまうことがあるので注意が必要だ。

(石橋文健)

MapEdit

Ver. : 2.02

¥ : US \$25 (試用期間30日)

人 : Boutell.Com社、
Thomas Boutell氏

→ : 117Kバイト/42秒
(ウィンドウズ3.1、95用)
54Kバイト/20秒(ソラリス用)
66Kバイト/24秒(サンOS用)
57Kバイト/21秒(Linux用)
69Kバイト/25秒

(UNIX/X.11 source)
88Kバイト/32秒
(OSF/1.DECアルファ用)

URL : http://www.boutell.com/
mapedit/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp